

第1回八幡市まち・ひと・しごと創生検討懇談会会議録（要旨）

○日 時：平成30年11月7日（水） 14：00～15：50

○場 所：八幡市役所 分庁舎2階 会議室B

○内 容：

1 開会

2 協議・報告

(1) 総合戦略の概要及び効果検証について【資料1】

(2) 総合戦略の進捗状況について【資料2】

(3) 意見交換（以下にプロジェクトごとの要旨をまとめて記載）

【プロジェクト1 子どもが輝く未来の創生「やわた子ども未来プロジェクト」】

委 員：「基本目標「子育て世帯の転出入者」について、目標、実績数値の改善度合いを、転出入者の減少割合で表現するなど、わかりやすく表現できないか。」との事前アンケート意見について、事務局から何かあるか。

事 務 局：指標の表現方法や異なる角度からの分析について、今後検討させていただく。

委 員：「KPI「自分の良いところを知っていて、自分のことが好きと思う子どもの割合」の目標値50～60%は低いのではないか。また、目標値の達成に向けてどのような取組を行っているのか。」との事前アンケート意見について、事務局から何かあるか。

事 務 局：目標値の妥当性について議論は当然あると思う。今後の結果を踏まえ、次期戦略の方向性と併せて検討したい。達成に向けた取組としては、学校授業におけるシティズンシップ教育をはじめ、道徳や人権の授業、生活指導などの中で、自己肯定感を高める工夫を行っている。

委 員：学力だけではなく、自己肯定感を高めるという以前にはなかった考え方がKPIに取り入れられている。

委 員：「放課後子ども総合プラン実施個所数」や「子どもわくわく教室開催数」の目標達成に向けてどのような主体が検討しているのか。

事 務 局：「放課後子ども総合プラン」については、「放課後学習クラブ」を所管する教育部と「学童保育」を所管する福祉部とが連携を図り検討を進めている。「子どもわくわく教室」については、市体育協会や市文化協会が主催する事業であり、これらの団体を所管する教育部と各団体との連携により検討が進められている。

委 員：KPI「中学卒業時の英検3級以上の所持率」を達成できた理由は何か。

事 務 局：「放課後学習クラブ」において受験対策を実施していることや教育委員会で受験料負担を行っていることが受験促進と合格率向上につながっていると考えられる。

- 委員：取組の成果が一定現れたとも取れるが、単に受験者数が増えていることによるものなのか、合格率が向上しているのか、また府内平均との比較ではどうなのか、などについて分析が必要。
- 委員：KPI「認定こども園実施箇所数」の進捗はどうか。
- 事務局：平成29年度の実績としては3園であるが、平成30年4月に2園がこども園化しており、現時点で目標値を達成している。
- 委員：基本目標「子育てが楽しいと思う保護者の割合」について、子育てが楽しいとみんなが思えるような施設や制度があれば数値の向上にもつながると思う。すくすくの杜はきれいで過ごしやすいが、橋本地域からは遠い。そのような施設が身近にあればいいと思う。
- 委員：スタディサポート事業の所得制限を緩和またはなくしてほしいという声をよく聞く。そのような拡充はできないか。
- 事務局：男山地区で試行を開始して以降、その効果を注視しながら、市内全域での実施など拡充を進めてきている。ご意見については今後の検討事項として担当部局に周知させていただく。

【プロジェクト2 健幸都市の創生「やわたスマートウェルネスシティプロジェクト」】

- 委員：「「元気アップサポーター養成」について、毎年の養成人数を目標、達成人数として整理できないか。」との事前アンケート結果について事務局から何かあるか。
- 事務局：ご意見について、今後の検討事項とさせていただく。
- 委員：健康フェスタの効果に関し、参加者数の増加だけではなく、KPI「平均寿命と健康寿命の差」の縮小につながる内容になっているのか。
- 事務局：市民が健康づくりに取り組むきっかけとなる内容として、体力測定やニュースポーツ体験などを継続的に実施しているとともに、著名人を招いた集客性のある講座等や子どもも楽しめるコーナーなど、毎年検討を重ね取り組んでいる。
- 委員：子どもも楽しめる内容であり、イベント周知のためにポロシャツを作成するなど市役所全体で取り組む雰囲気もあり、今後定着していくと思われる。ただ、特に高齢者への周知不足が見受けられたこと、自治連合会による「流れ橋ふれあいウォーキング」についても周知不足であったことなど、PRに課題が残る。
- 委員：「産官学と地域連携によるコミュニティ運動教室」について、「学」とあるがどこと連携しているのか。
- 事務局：京都学園大学との連携を行っている。
- 委員：自治会や老人会が中心となった健康づくりの取組を行っている地域もあるが、市として十分把握されているか。コミュニティ運動教室の実施箇所数拡大に向けても、市からの積極的な支援や連携を図ってはどうか。
- 委員：「健康寿命」とはどのようなものか。

- 事務局：総合戦略にも定義は記載されているが、わかりやすい説明について追って報告させていただく。
- 委員：何らかの病気を患っていても元気に活動している人はいる。この点も踏まえて「健康寿命」を考えるべきではないか。
- 委員：「体を動かす」、「頭を使う」、「人の役に立つ」ことが健康には重要であると医療関係者から聞いている。定年を迎えて健康づくりに取り組む人よりも、70歳以上でも現役で働いている人の方が健康的であると感じる。一概に加齢により不健康になるのではなく、体と頭を使わないことが不健康につながるように思う。健康フェスタのようなイベントに積極的に出かけてもらうことが健康にもつながり、ひいては平均寿命と健康寿命の差の縮小にも資すると思う。
- 委員：地域で子どもたちを見守る「見守り隊」の活動に対して、先日感謝状をいただいた。社会的な役割を認識することが、健康にもつながっていると思う。
- 委員：健康寿命を延ばすことが大事であるので、平均寿命と健康寿命の差ではなく、健康寿命の延伸を目標にしてもいいのではないか。
- 委員：健康寿命の延伸をキャッチフレーズとしてPRし取り組むことで、健康寿命の重要性を意識してもらえないのではないか。
- 委員：ご意見を参考に、「健康寿命」の考え方を整理して周知を図るとともに、「健康寿命を延ばす」ということを庁内及び市民にPRするべきである。

【プロジェクト3 文化と暮らしの創生「やわたチャレンジプロジェクト」】

- 委員：ある程度の人口減少を受け入れつつ、元気で豊かな地域になることを目指すうえで、観光まちづくりは非常に重要な役割を占める。基本目標の「観光客の満足度」「観光意欲度」は長期的には有効であるが、観光客の人数という量的側面、観光客の滞在時間・平均消費額という質的側面の双方から、具体的な指標が設定できないか。
- 事務局：質的な側面での考察も重要だと認識している。滞在時間などは、電話事業者のサービスなども存在することから、検討事項であると考えている。
- 委員：観光客は増加しているが、インバウンドの増加や、石清水八幡宮の国宝指定による一時的な増加の可能性はある。目標は達成しているが、需要を取り込みきれているか、他地域との比較等によって検証する必要がある。観光客や石清水八幡宮への参拝客に市内でお金を使ってもらわないと地域内でお金が循環しない。
- 委員：「Chazz in YAWATA」開催について、1年前から開催が決まっていた八幡市一斉清掃「まちかどのごみ」ゼロの日と重なっていた。今後は日程調整にあたり配慮されたい。また、事業費が多く、お茶に名を借りたジャズの演奏宣伝ではないかと思う。

- 事務局：「Chazz in YAWATA」は今回実行委員会形式で実施しており、実施内容や事業費については委員会で議論をされたものであるが、今後の方向性については検討が必要であると認識している。また、日程についても今回の反省点であったと考えている。
- 委員：ボランティアで行われているイベントや地域の行事と比較し、1つのイベントとして費用がかかりすぎではないかと思う。
- 委員：アイルランドの駅前では楽器の演奏が行われており、小さな町にも賑わいがあって楽しい雰囲気が出ていた。音楽にはまちを元気にする力があると思う。
- 委員：KPI「市民の幸福度」に関連して、世界と比べても日本は主観的な幸福度ランキングが低いと言われている。
- 委員：「幸福度」を図る基準を定めるのは非常に難しい。子育て環境が充足していることやまちの魅力が向上していることなどが幸福度につながると考えられる。
- 委員：人とのつながりや自然とのつながりがあること、心の充足があること、夢や希望があることが重要だと思う。毎年発表されているワールドハピネスレポートでも日本の幸福度は低い。幸せと感じない理由は今挙げたようなつながりが感じられないこと、日本人特有の中流思想や幸せでも周りの人に伝えたくないという控えめな国民性が影響していると言われている。
- 委員：市民幸福度に代わる、コストもかかり過ぎない、八幡らしい KPI が設定できないか検討が必要。
- 委員：地域のつながりもそうであるし、住んでよかったと思えることも幸福度として考えられる。
- 委員：お茶の京都キャンペーンに関連し、独自の商品開発や工夫の進捗状況はどうか。
- 事務局：平成 28 年度には八幡産抹茶を「浜乃風」として商品化し、PR を行っている。また一坪茶室「空中茶室そら」も八幡の茶文化を発信する効果的な手段と捉え、各種イベントでの PR 等を進めている。また、新たな商品開発としては、松花堂弁当をモチーフとした「松花堂スイーツ」の商品化に取り組んでいる。
- 委員：京都府主導による「お茶の京都 DMO」任せではなく、さらなる独自の取組も進められたい。
- 委員：「浜乃風」について、どこで購入できるのか周知されていない。開発と併せて販路も十分検討すべきである。
- 委員：だんだんテラスの取組について、大学の先生や学生が良く活動されているとのことで評判が良い。学生の力を活用することは今後も重要な課題。大学との連携についてもさらなる検討を進められたい。

- 委員：「石清水なつかしい未来創造事業団」では学生との連携による事業展開も考えられている。活用も検討してはどうか。また、大学と民間企業との共同プロジェクトも活用すれば、広報面等で役に立つかもしれない。
- 委員：大学との連携については仕組みづくりも含めてさらなる検討が必要。また男山地域再生もそうであるが、良い取組は継続的に実施いただくとともに、一歩進んだ取組も検討されたい。
- 委員：「商工会会員廃業届が事業承継できずに年々増えており、新規加入届が思うように増えていない。地域の創業を増やし廃業を減らす為に創業者支援だけでなく、第三者の事業承継者「日本政策金融公庫の創業融資制度」や「自治体の創業者向け融資制度」など、創業者支援制度と同等の事業承継者にも利用しやすい制度を設け支援されたい。また、創業者の7割が3年以内に廃業する現状で、後継者不在の事業を引き受けスタートするほうが創業者にとって廃業に追い込まれるリスクが少ないと思う。」との事前アンケート意見について、事務局から何かあるか。
- 事務局：現在は既存事業者等の販路開拓に力を入れており、京都府にも支援を求めているところ。担い手不足等による事業承継の問題についても認識しており、今後の検討課題と考えている。
- 委員：「地域福祉推進計画事業」の「わたしたちの談話」は社会福祉協議会が実施しているのか。
- 事務局：社会福祉協議会と福祉総務課が連携し取り組んでいる。
- 委員：基本目標「まちの魅力度」に関連して、北海道の夕張市が財政破たんした際も、道はきれいにしようとする方が花を植えており、そういったこともまちの魅力につながると思う。ハード面だけではなく、ソフト面の充実も美観や修景に影響すると思う。
- 委員：市役所前を通る府道八幡長尾線など、市内幹線道路に八幡らしい名称を付けてPRすることもまちの魅力向上につながると思う。
- 委員：1つのテーマでまちづくりをしてもいいのではないかと。市民が自主的に建物を長屋風に改築して観光地のような雰囲気を作り出す長屋プロジェクトというものもある。
- 委員：基本目標とKPIは達成もしくは前進しているものも多いが、さらに取組を進めることで、まちを元気にしていってほしい。
- 委員：基本目標「年間観光消費額」について、「年間観光入込客数」から1人当たりの観光消費額を算出すると約240円と非常に低い。
- 委員：非常に重要な指摘である。1人当たりの観光消費額に置きなおすことも検討が必要。
- 委員：京田辺市は八幡市よりも観光入込客数が少ないが、観光消費額は八幡市よりも大きい。

委員：八幡市の「観光入込客数」と「観光消費額」は増加しているが、他の地域はもっと増えている状況にあるのではないか。達成している基本目標についても内容の整理が必要。

3 その他

(1) 懇談会でいただいたご意見について

主な意見を懇談会の評価として取りまとめ、委員確認後、庁内で共有し今後の検討事項とすること、また併せて議事要旨も確認いただき、市ホームページ上で公開することについて了承。

(2) 次回懇談会について

来年度を予定（別途調整）。

4. 閉会